

## 平成 22 年度 特別研究助成報告

### 仮名垣魯文を中心とした幕末開化期戯作研究

山本 和明

本研究は、申請者が数年来継続してきた仮名垣魯文およびその周囲に位置する三遊亭円朝の戯作・速記本等についての調査研究をおこなうものである。本学平成 18 年度助成「開化期戯作の出版史的研究」、同 19 年度助成「開化期戯作と新聞の文芸研究」、同 20 年度助成「仮名垣魯文作品研究」を継承するものと位置づけられる。

本助成を得て、都立中央図書館や国会図書館、国文学研究資料館等、多くの明治期文献を収蔵する機関で文献調査を執りおこなう事が出来た。その研究成果として特記すべきことに、次の 4 点をあげることが出来る。

- ①笠間書院刊『仮名垣魯文解題集（仮）』の解題担当作品十数点の執筆にあたって確認調査をおこなえたこと〔既に原稿提出済。刊行時期未定〕。
- ②調査を踏まえ、論文（前年度研究論集掲載拙稿「魯文『百猫画譜』成立事情に関する小考」）を発表したこと。
- ③岩波書店刊行予定『円朝全集』担当作品「松の操美人の生理」「松と藤芸妓の替紋」「雨後の残月」「奴勝山」等の新聞雑誌初出本文の確認と書誌調査、関連するボール表紙本等の調査をおこない、提出原稿に求められる正確な本文翻刻を完了することが出来たこと〔現在、印刷原稿校正中〕。
- ④並行しておこなった幕末期切附本・合巻の書誌調査を踏まえ、被せ彫りによる後摺本の実態について考察できたこと。その成果は「覆刻本版下について－草双紙を例に－」と題し、参画する特定研究「近世の表現様式と知の越境」共同研究会（於：国文学研究資料館、代表：山下則子国文研教授）において発表した。なお、当初は年度内の 3 月 17 日に発表予定であったが、震災による東京圏の計画停電の影響を受け、5 月 14 日となったことを附記しておく。

まだ成果公表に到らぬものも多いが、継続して研究を進めたい。

## 青年期男女の体格・体組成と 運動量・食事量・生活習慣との関連

中村 富子

青年期の男性では肥満、女性では「やせ」や「隠れ肥満」の割合が高くなっていることが指摘されている。これまで、体格及び体脂肪に及ぼす食事、運動、生活習慣の影響を調べた研究は多いが、運動のみ、食事のみの場合が多く、運動・食事・生活習慣全般との関連を調べた研究は少ない。そこで、本研究では本学学生を対象として、体格・体脂肪、運動・食事・生活習慣調査を行い、体格・体脂肪に及ぼす運動・食事・生活習慣の役割を明らかにし、「やせ」や「隠れ肥満」に影響する因子について検討することを目的とした。

本研究には 82 名の学生が参加し、その中の 67 名（男性 9 名、女性 58 名）を解析対象とした。女性の 20.7% が「やせ」、44.8% が「隠れ肥満」であった。男性は 88.9% が標準体型であった。女性の 79.9%、男性の 44.4% がやせ願望を持っていた。「やせ」の女性は現在の健康状態をよいと答えた者の割合が少なかったが、体脂肪率が高い女性は逆に健康状態がよいと答えた者の割合が高かった。高校での運動クラブ経験をもつ女性は有意に体脂肪率、内臓脂肪レベルが低く、フィットネススコアが高かった。「やせ」の女性は標準体型の女性と比べて、骨格筋量、エネルギー消費量、運動量が有意に少なかった。また、第二次性徴期に高頻度に運動を行っている者が多かった。本研究の結果から、運動の過不足が「やせ」と関連し、体脂肪率を減らすにはフィットネススコアを高くするような運動が必要で、高校での運動経験が大きな影響を持つと考えられた。

これらの本研究助成の成果の一部は、相愛大学研究論集 28 号に掲載している。また、現在、日本栄養改善学会に論文投稿中である。

## SAT コンピューター分析システム導入による 産官学連携食育の教育評価と分析に関する研究

丸谷 宣子

## SAT 食育教材導入による産官学連携食育の 教育内容高度化に関する研究

多門 隆子

本学発達栄養学科は、平成 19 年から、マーケットにおける食育推進キャンペーンや、大阪府民を対象とした食育活動などを継続的に行ってきた。本研究では、これらの実践をフィールドワークのみに終わらせるのではなく、栄養教育の数値的分析と学術的評価研究として推進することを目的とし、丸谷は SAT 教材システム導入による産官学連携食育の教育評価と分析に関する研究、産官学連携食育の教育内容高度化に関する研究を行った。

SAT 教材システムはバーコード化された数百の教材をベースにしているが、付属のコンピューター評価システムに接続することにより、教育対象者の食品選択や栄養摂取行動等を即時にコンピューターに取り込み分析することができる。また、食育実施後のデータの集積と研究的分析にも活用できる。

平成 22 年より、実際に SAT 教材システムを活用し、地域住民を対象として産官学連携により食育活動を展開している。研究成果の一部としては、「食と運動・健康フェスタ」の結果からは、SAT 教材システムから求めたエネルギー摂取量が適正範囲にあるものはフィットネススコアが高いこと、「住之江区みんなの健康展」の結果からは、住之江区住民は全国平

均に比べてカルシウムの摂取量が少ないこと、「糖尿病予防セミナー」の結果からは、糖尿病肥満患者は野菜の摂取量が少なく野菜摂取勧奨が、肥満が改善されない糖尿病患者の指導のポイントになる等の知見が得られている。

これら本研究助成の成果の一部は、平成 22 年度及び 23 年度日本栄養改善学会、日本公衆栄養学会において発表した。また、相愛大学研究論集 27 号及び相愛大学人間発達学研究論集第 2 号に掲載している。今後、日本栄養改善学会等に論文投稿をする予定である。

## 平成 22 年度 研究成果刊行助成報告

### 『続詞花和歌集新注』の刊行

鈴木 徳男

研究成果刊行助成を受けて、『続詞花和歌集新注』を青簡舎から出版した。上（総 490 頁）を平成 22 年 12 月 25 日、下（総 424 頁）を平成 23 年 2 月 25 日に刊行。

本書は永万二年（1165）成立の、藤原清輔の撰した『続詞花和歌集』（以下、本集）20 巻 998 首の全注釈である。本文は国立歴史民俗博物館所蔵本（重要文化財）を底本として用いた。貴重典籍叢書文学篇第六卷（臨川書店、1999 年）に影印が載る。

内容を要約すると以下の通り。〔現代語訳〕〔他出文献〕〔語釈〕〔補説〕の順で注釈した。〔他出文献〕は私家集、勅撰集、私撰集などの歌集を主として掲げる。その他注記が必要な場合は〔補説〕に述べた。歌合、歌学書、説話集などは〔補説〕に掲げた場合がある。〔語釈〕では、詞書、歌を読解するのに必要な語句や事項を掲げ解説。用例は撰者清輔に関連するものを優先して引いた。作者については〔入集作者略伝〕にまとめて記す。〔補説〕において出典の歌合・歌会を指摘。また撰集、配列構成の意図を記すほか、他項で説明できなかった事項について述べた。下末に〔解説〕〔参考文献〕〔入集作者略伝〕〔初句索引〕を付けた。

藤原清輔について、近時さまざまな研究成果が公表されている。清輔編である『扶桑葉林』の一部が新たに紹介され、清輔の生没年が確定された。『扶桑葉林』の全体は散佚しているが、史上最大の和歌資料集成といわれる 200 巻の大部であり、清輔の業績の大きさがさらに明らかにされた。『扶桑葉林』は、二条院に献上された『題林』（散佚）120 巻を増補したものであり、本集跋文冒頭に自ら記している若いころからの研鑽ぶりが知られ、その手元に集積されていた和歌作品の分量が想像される。清輔の

撰集が豊饒の世界をもつ理由のひとつがここにある。

本集の研究は、著者が平安後期和歌文学の注釈的研究の一環として長年にわたり取り組んできたテーマであり、本格的な注釈は未だなされていなかった。二条院に奏覧されるべく七番目の勅撰集をめざして編纂された本集の和歌史的意義はまことに大きく、その注釈は待望されたものであった。今後は、本書を基礎にその修正をこころがけながら、研究の深化をはかりたい。